

セーチェニ鎖橋

Bridges of the World

ハンガリー・ブダペスト



ハンガリー・1964年発行

ドナウ川を挟んで性格の異なったブダとペスト（ペシュト）の街の結びつきを強固にしたのは、セーチェニ鎖橋が1849年に完成したことでした。オーブダも加えた3つの街が一体としてブダペスト市になったのは1873年のことで、恒常的な橋の存在がブダペストを誕生させた原動力になったと言ってもいいでしょう。

架橋事業を推進したのはセーチェニ・イシュトヴァン伯爵です。架橋に熱心に取り組むことになったのは、父の死去に際しても増水した川を渡れず、1週間以上も足止めされてしまった経験が要因だったようです。

1832年2月に「ブダペスト橋同盟」が結成されましたが、それは永久橋によって兩岸の街を結合するという強い意思表示でもありました。セーチェニ伯はイギリスへ橋の調査におもむき、W・T・クラークが架けた吊橋を見学し、彼に架橋事業を託すことにしました。

運営会社が1836年に設立され、1839年の秋によく基礎工事が始められました。橋の形式は全長380m、主径間長203mのチェーン式の吊橋で、設計はW・T・クラ

ークが担当、現場監督はA・クラークという20歳代の若いイギリス人に任せられました。

1848年には橋の現場が革命戦争に巻き込まれ、両軍の争奪戦の対象となって爆薬が仕掛けられたこともありましたが、そして、1849年11月20日に念願の落成式が行われましたが、そのころ政治的に失脚したセーチェニ伯は禁足状態に置かれる中で、一度も橋を渡ることなく、この世を去ります。しかし、その功績を称えるために彼の名を冠して「セーチェニ鎖橋」と名付けられました。

完成後の1852年に橋の四隅に堂々としたライオン像が据えられましたが、この橋に対する市民の強い思いが込められているように思えます。

第二次大戦の末期、撤退するドイツ軍がドナウ川の橋を次々と爆破していきました。このためブダペストのドナウ川の渡河手段は完全に失われてしまいましたが、セーチェニ鎖橋は鋼材の55%を川中から回収して以前の姿に復元されました。復旧作業は大幅に遅れましたが、1949年に創架100周年を兼ねて開通式が行われました。



撮影：松村 博